

笑顔あふれる学校・思いやりあふれる学校・チャレンジあふれる学校

令和2年度 飯野中学校 学校だより 第4号

自律 志保井が丘 協働
挑戦 2020.5.12 発行 文責 校長 目黒 満 創造
教師・保護者・地域がみんなで見守り、みんなが育む学校

5月12日(火)13日(水)の二日間、4月7日以来ほぼ一ヵ月ぶりの授業となります。5連休明けの8日(金)に市公立学校長会議が開催され、5月31日までの臨時休業延長期間の登校日の対応について市の方針が出され、31日までの3週間を段階的な学校再開のための期間とし、分散登校で午前中限、給食なしでの登校日を設定することとなり、今週はその第1週目となっています。

今週は、各自1回、分散した形で登校し、これまで家庭で取組んできた課題の提出や確認、また、ようやく授業も少しだけですが始まりました。学校には、生徒の笑顔が戻り、先生方も緊張しながらも、生徒と接することができる喜びを実感しています。

登校日に向け、昨日まで教室や廊下の清掃に取り組むとともに、今回はトイレの入口にもアルコール消毒液を置き、トイレでの感染防止を図ることとしました。

また「新しい生活様式」の一つとなる「Social Distancing(社会的距離・身体的距離)」の表示を校舎内に

に設け、2mの距離感を常に意識できるような環境づくりをしてみました。2mの間隔を取るというのはなかなか難しいものです。今、スーパー等のレジ前にも間隔を空ける表示がありますが、2mを取っている店はあまりないようです。1mあるいは1.5m程度が、限られた店内の面積の中では限界のようにも思えます。

学校の授業は当然、教室で行います。現在の福島市の学級編制基準では中一は最大30人、中二・中三は最大33名となっています。ソーシャルディスタンスの考え方はこの基準の前提にはありませんが、実際の生徒間の距離の確保を見ると、本校生徒全員が出席した場合、33名在籍の2年生の教室では前後が1m弱、左右が1m15cm程度、斜め間は1m50cm程度です。1・3年生の場合は18~20人の学級ですので、前後左右間が1m15



cm程度、斜め間は1m50cm~2m程度確保ができます。

今回、政府方針として「新しい生活様式」の実践例が出されましたが、ソーシャルディスタンスについては「人との間隔は、できるだけ2m(最低1m)空ける」とあり、「会話をする際は、可能な限り対面を避け

る」とあります。これらは、会話の際の飛沫が1m~2m飛ぶということがこの距離や位置関係を制限する科学的な根拠となっているものと考えます。また、「マスク着用」や「手洗い・消毒」も徹底することで、ある程度感染リスクが下げられるとの考えがもとになっているのではと思います。(ちなみに、マスクをしない状態での咳やくしゃみ場合は最大5~6mも飛ぶそうです・・・)

何はともあれ、学校再開に向けたステップの第一歩目が何とかスタートできたこと、教職員一同、うれしい限りです。

学校に生徒がいること、通常の授業や部活動等ができること、これまでは「当たり前」と思っていました。しかし、臨時休業が長引き、学校が静寂に包まれる毎日を過ごし、こうして授業が再開できることを経験したことで、「当たり前」が「あり難いこと」に、そして「贅沢なこと」とすら感じています。生徒の「笑顔あふれる学校」、登校する生徒数が半数であってもいいものですね。



「新しい生活習慣」の実践例より

(2) 日常生活を営む上での基本的な生活様式

- まめに手洗い・手指消毒 咳エチケットの徹底
- こまめに換気 身体的距離の確保
- 「3密」の回避(密集・密接・密閉)
- 毎朝家族で体温測定、健康チェック 発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養
- 屋内や会話をするときは、症状がなくてもマスクを着用